R６年度 区西北部高次脳機能障害支援普及事業講演会

参加費 **無料**

当事者にとっての「易怒性」（情動の脱抑制）とはどんなものか？

講師 鈴木 大介 氏 文筆家

座長 會田 玉美 氏

目白大学大学院リハビリテーション学研究科長
目白大学保健医療学部作業療法学科教授 ，Ph.D

講師より皆様へ

高次脳機能障害の症状の中でも、支援職の方にもご家族にも理解と対応に苦しむのが、当事者の感情の脱抑制、中でも怒りなどネガティブな感情をコントロールできない症状でしょう。この症状は時に当事者を社会から孤立させ、家族を含む周囲との縁を崩壊させる、非常に残酷な症状です。けれど、なにより当事者が理解してほしいと思うのは、当事者が「わがままになった」「怒りっぽくなった」、つまり自身の感情を抑制せず好き放題に感情を表出するようになったのではなく、必死に耐えても感情が溢れ出し暴発するのを自身でも抑えきれない。つまり当事者は抑制「しなくなった」のではなく、必死に抑制しようとして、なおかつそのコントロールに失敗しているという状況もあるということです。

その必死の抑制には、大きな苦痛が伴います。また、抑制に失敗したことを、当事者は自罰します。僕にとってそうしたエピソードは、非常に強い希死念慮を伴う危険な体験でした。当事者の易怒とは当事者にとってどのように感じられているものなのか、緩和にはどんなアプローチが考えられるのかを、お伝えしようと思います。

日時 2024年１１月８日(金)
18:30 - 20:00

会場 都立豊島病院　8階研修室
（会場定員60名）WEB(Webex)同時配信・アーカイブ配信あり

【講師プロフィール】子どもや女性、若者の貧困問題をテーマにした取材活動をし『最貧困女子』（幻冬舎）、『ギャングース（漫画原作・映画化）』（講談社）、『老人喰い』（ちくま新書・TBS系列にてドラマ化）などを代表作とするルポライターだったが、２０１５年に脳梗塞を発症。その後は高次脳機能障害者としての自身を取材した闘病記「脳が壊れた」「脳は回復する」（いずれも新潮社）や夫婦での障害受容を描いた「されど愛しきお妻様」（講談社）などを出版し、援助職全般向けの指南書「『脳コワ』さん支援ガイド」（医学書院・シリーズケアをひらく）にて日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞。近刊は当事者向けの自己理解支援読本『脳損傷のスズキさん　今日も全滅』（合同出版）、支援職向けの心理的支援提案本『不自由な脳は続く』（金剛出版・山口加代子心理士との共著）。

お申し込みはこちらから
https://forms.office.com/r/gYm4t1zxCP

申込締切 11月7日（木）

アーカイブ視聴のみご希望の方も期日までにお申し込みください

お問合せ

区西北部高次脳機能障害支援普及事業
東京都立豊島病院 患者・地域サポートセンター　波多野・菅原・今井
所在地：〒173-0015 東京都板橋区栄町 33 -1
TEL：03-5375-1234 FAX 03-5944-3534